

# 投稿規定

1. 本誌への投稿は、本会正会員および特別会員に限る。
2. 本研究会における講演者は講演要旨を本誌に投稿する。
3. 本誌への掲載論文は病害虫に関する未発表のものおよび本会が依頼したものとする。
4. 原稿は、別途定める執筆要領にしたがって執筆する。
5. 印刷頁数が2頁を越えた場合は、超過分につき1頁当たり10,000円を超過頁代金として著者が負担する。
6. 論文投稿予定者は、予定論文表題、代表著者名、所属、連絡先を3月末日までにe-mailに添付した投稿計画連絡票の送付によって編集委員長に連絡する。
7. 投稿に当たっては、原稿および投稿票を4月20日までにe-mailに添付して編集委員長へ送付する。
8. 投稿された原稿は、編集委員会が委託した校閲者2名の校閲を受ける。編集委員会は、校閲者の意見を参考にして著者に原稿の修正を求めることができる。
9. 投稿原稿の採否は編集委員会で審議し、編集委員長が決定する。
10. 校正は原則として初校のみを著者が行う。校正時での内容の変更は認めない。
11. 別刷りは50部を単位とし、代金は著者が負担する。
12. 編集委員会は執筆要領および編集方針に基づき、原稿中の用字・用語を修正する権限を持つ。
13. 英文による表題、摘要および図表は、編集委員会より英文校閲者に校閲を依頼する。表題の校閲料は研究会の経費から負担し、摘要ならびに図表の校閲料は著者が負担する。
14. e-mailが利用できない場合は事務局に申し出てその指示に従う。
15. 本規定の改正は評議員会で行い、総会に報告しなければならない。

## 執筆要領

原稿は和文で横書き口語体とする。漢字の使用は、専門用語を除き、できるだけ常用漢字に限る。文章の区切りはコンマ(,)と句点(.)にする。原稿にはA4判縦用紙を用い、ワードプロセッサなどで横書きする。原稿の上下と左には約3cm、右には校閲のために8cm以上の余白をとる。1行文字数は24字、1頁行数は28行以下とする。

### <論文原稿>

1. 論文原稿の第1頁には、表題、著者名、所属、英文表題、英文著者名、別刷りの英文請求先、原稿の受領・登載決定日(日付は空欄)を書く。第2頁には和文あるいは英文の摘要を書き、本文は第3頁から書く。原稿には必ず頁番号を入れる。
2. 摘要は簡潔にまとめ、改行はしない。
3. 本文の見出し・小見出しのランクは、番号なし(材料および方法、結果など)、1., 1), (1), の順とする。
4. 動植物名はカタカナ、病名は常用漢字またはひらがなとし、動物・害虫名は日本応用動物昆虫学会編の農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版、病名は日本植物病理学会編の日本植物病名目録に準拠する。数字は原則として算用数字を用いる。
5. 見出しはゴシック体とする。本文は、和文については明朝体、欧文についてはCenturyとする。ただし、図表中については特にフォントの指定はしない。欧文のイタリック体は実線の下線、ゴシック体は波線の下線、スモールキャピタルは二重の下線で示す。学名は本文の最初に出てきたときに書き、イタリック体とする。
6. 単位の略記は次の例による。  
温度 °C; 重さ kg, g, mg, µgなど; 長さ m, cm, mm, µm, nm; 面積 m<sup>2</sup>, cm<sup>2</sup>, a, ha, ; 容積 L, ml, µl; 時間 〃(分), 〃(秒)(文章の中では分, 秒とする); 濃度 M, mM, N, %, ppm, ppb; 水素イオン濃度 pH; 酸化還元電位 Eh, rH。
7. 本文中や引用文献等の欧文人名は次のようにする。  
例, Baker et al. (1975), Dyar の法則, ……
8. 本文中で文献の引用は次のようにする。  
野口(1982a, 1982b, 1983), Tanaka and Kashio(1977), 田中・井上(1973), 田中ら(1974), Baker et al. (1975), (桑原ら, 1983; 池田ら, 1984; Smissaert et al., 1985)

9. 引用文献はアルファベット順，暦年順に配列し，次のように記載する。

1) 雑誌など逐次刊行物

五味唯考・根本正康(1984) 日植病報 50: 109-113.

Nakamura, K. and K. Kawasaki (1977) Appl. Entomol. Zool. 12: 162-177.

2) 単行本

大木 理 (2007) 植物病理学. 東京化学同人, 東京. 161pp.

Lewis, T. (1973) Thrips, Their Biology and Economic Importance. Academic Press, London. 300pp.

3) 単行本中の分担執筆論文

岡本 弘 (1962) 植物病理学実験法(明日山秀文ら編). 日本植物防疫協会, 東京. pp. 301-334.

Sanders, C. J. (1974) Pheromones (M. C. Birch ed.). North-Holland Pub. Co., Amsterdam. pp. 435-441.

4) 雑誌および単行本で著者が3名以上の場合，著者名は和文で――ら，英文では―― et al. とする。

5) 引用文献の記述は，日本語および日本語姓と名前の字間および氏名間の・の全角を除き，括弧，ページ間のハイフン，コロン，カンマ，ピリオド，英字，数字等はすべて半角とし，字間も半角とする。また，括弧の前後および半角コロン，カンマ，ピリオド等の直後には半角スペースを挿入する。

10. 図はできるだけ簡略にし，必要最小限にとどめる。図は，あらかじめ1/2（面積で1/4）程度に縮小できるように描く。凡例は図内に書く。

図の表題は図の下部に書き，第○図……のようにする。

11. 表はできるだけ簡略にし，原則として縦線は使用しない。

表の表題は上部に第○表……のようにする。表中の注釈は a), b)……（上付）を用い，表下は以下のようにする。

a)……………

b)……………

12. 図表は1枚を1葉に書き，図表の挿入位置を原稿の本文右余白に明確に示す。

13. 図を手書きする場合には，あらかじめ事務局に連絡し，その指示に従って作成する。

14. 審査を経て受理された原稿は，編集委員長の指示に従い所定の様式に再編集し，e-mailに添付して編集委員長へ送付する。

<講演要旨>

表題，著者名，(所属)，本文の順に，それぞれ改行を入れて全体を600字程度にまとめる。